

令和 5 年 6 月 11 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K12606

研究課題名（和文）スポーツにおける性的マイノリティの包括と排除のサーキュレーション・モデリング研究

研究課題名（英文）Inclusion/exclusion of sexual minorities in sports

研究代表者

松下 千雅子（Matsushita, Chikako）

名古屋大学・人文学研究科・教授

研究者番号：90273200

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：近年、スポーツの女子競技において、インターセックスやトランスジェンダーの選手の参加をめぐる論争が起きている。この問題は、出生時の性別と性自認の間に齟齬がないシスジェンダー女性の権利や身体保護を目的とする従来のフェミニズムと、セクシュアル・マイノリティの人権を尊重するクィアとの間のコンフリクトを表面化させるとともに、何が公正であるかは、個々の立ち位置によって異なることを明らかにした。本研究では公正さを満たすために行われるマイノリティの排除と包括が、本質主義フェミニズムと構築主義的クィアとの間でサーキュレートすることを概念化し、その中で達成される公正さの構築プロセスを解明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

トランスジェンダーやインターセックスの選手のスポーツ大会への参加を規定したガイドラインについて、国際的なスポーツ団体は、ここ数年の間、幾度となく修正を加えてきた。このことは、シスジェンダーでない選手に対する包括と排除が、スポーツ競技において依然として未解決の問題になっていることを示唆している。本研究では、繰り返される修正の裏にあるフェミニズム的価値観とクィア的価値観の葛藤を明らかにした。この成果は、今後のスポーツ大会の方向性を検討する際に参考となる知見を提出したことで社会的意義があるとともに、フェミニズム研究、クィア研究のあり方を問うものとして、学術的意義がある。

研究成果の概要（英文）：In recent years, the participation of intersex and transgender athletes in women's sports has been widely discussed. This issue has brought to the surface the conflict between traditional feminism, which aims to protect the rights and bodies of cisgender women, and queer activism, which respects the human rights of sexual minorities. It brought to light that the concept of fairness depends on individual positions. This study conceptualizes the construction system of fairness concerning the inclusion/exclusion of transgender and intersex athletes, in which the different concepts of fairness circulate between essentialist feminism and constructionist queer.

研究分野：ジェンダー学

キーワード：スポーツ トランスジェンダー インターセックス フェミニズム クィア

1. 研究開始当初の背景

2018年4月、国際陸上競技連盟(International Association of Athletics Federations: 以下IAAF)は、2018年11月1日以降、特定の陸上競技において、Difference of Sexual Development (DSD)を有する女性アスリートは女子の試合への出場資格を得る前に投薬によってテストステロンレベルを下げる必要があると発表した。この決定は、女性の身体能力が男性に比べて劣っているという本質主義的な信念に依拠しており、シス女性の権利の尊重と身体の保護を目的とするものであるゆえに、フェミニズム的であると言える。学校の運動会からオリンピックに至るまで、スポーツを男女別に行うことが「フェアプレー」のための基本的条件であると見なされていることも、身体に対するこうした本質主義的理解に基づくものである。反対に、IAAFの決定を排他的であると批判し、インターセックス女性やトランス女性の人権を尊重して包括を求める声は、身体能力の差異をジェンダー差としてではなく個人差として捉え、多様性や多元性を重んじる構築主義的でクィア的な姿勢であると言える。第三波フェミニズム以降、フェミニズム理論とクィア理論は、手を携えるように発展してきたが、インターセックス女性やトランス女性の女子スポーツへの参加の是非をめぐる論争は、スポーツにおける「女性」の定義をめくり、二者の間にコンフリクトがあることを表面化する契機となった。

2. 研究の目的

本研究は、フェミニズムとクィアの限界を指摘し、インターセクセクショナリティ(アイデンティティの交差)という概念を、抑圧の認識プロセスの中で捉え直すことを目的とする。インターセクショナリティとは、あらゆる差別と抑圧が男女の差別と構造を同じくしているという知見に基づき、それらを複合的差別としてフェミニズムの射程に組み込むことを可能にする概念である。フェミニズム理論とクィア理論がこれまで手を携えてきたのは、両者の間にインターセクショナルな結節点が見出されていたからだといえよう。本研究では、その結節点の揺らぎを明らかにすることで、抑圧と被抑圧というフェミニズム的な二項対立のなかでのみ抑圧を捉えるのではなく、当事者性をどこに置くかによって抑圧の方向が変わりうる仕組みを解き明かしていく。したがって、本研究の目的は、インターセクショナルな抑圧構造における当事者性と抑圧の流動性を「包括と排除のサーキュレーション・システム」として創造的に示すことにある。構築主義的なジェンダー理論において、身体の問題は哲学的な問いとして処理されてきた。つまり身体のアクチュアリティは「構成的他者」として理解され、言説以前の存在を否定されることで理論的な整合性が保たれてきたといえる。フェミニズムとクィアの両者において、理論と実践の使い分けが常套手段であることからわかるように、アクチュアルな問題と哲学的問いは互いに切り離されることにより、個々の解決が可能になったともいえる。本研究では、定量調査と定性調査により得られたデータに忠実に基づきながら哲学的問いに答えることで、アクチュアルなものと理論との融合を図る。

3. 研究の方法

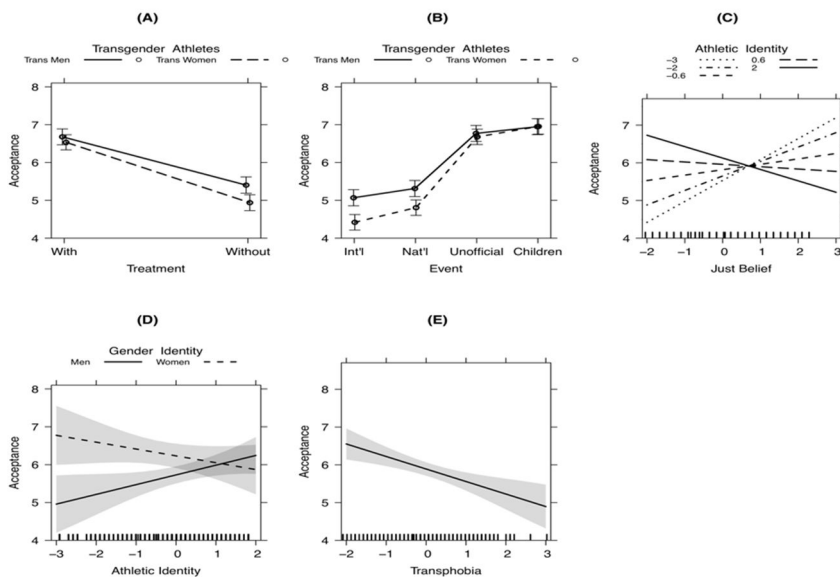
上記の目的のために、本研究では、その目的に合わせて本研究では、実証主義的であるとされる量的研究と、構成主義的であるとされる質的研究を組み合わせた混合研究法を用いた。具体的には、質問紙を用いた定量調査と、グループディスカッションを中心とした定性調査を行なった。定量調査では、非シスジェンダーのスポーツ参加に対する包摂的/排他的態度を目的変数とし、説明変数には研究参加者の競争的志向、トランスフォビア、スポーツ・アイデンティティ、フェミニズム的志向に関するスケールを用いた。さらに非シスジェンダーが参加するスポーツ大会をエリートスポーツと非エリートスポーツに分けて包摂/排他的態度を調べた。定性調査では、セクシュアルマイノリティの大学生、大学生の女性アスリート、大学生の男性アスリートの3グループに対して約1時間のグループディスカッションを行い、構成主義的グラウンデッドセオリーを用いてデータをコード化し、分析した。

4. 研究成果

本研究では、日本の大学生から収集した定量データと定性データを用い、スポーツイベントでのトランスジェンダーアスリートとDSDアスリートの包摂に影響を与える要因を分析した。定量調査の分析結果では、図で示したように、トランスジェンダーのアスリートは、(A)ホルモン治療をした場合と(B)非公式のレクリエーションイベントで、より受け入れられた。(C)自分をアスリートだと強く思わない回答者では、公正世界信念が強いほど包摂的だった。(D)自分をアスリートだと強く思う女性は、そうでない女性より排他的だった。同

じ傾向は、定性データでも認められた。さらに定性データからは、努力の価値を重視する場合には、トランスジェンダーアスリートに対して、より包摂的になり、勝敗を重視する場合には、より排他的になることが明らかになった。これらの結果を踏まえ、本研究では、定量調査と定性調査の結果を比較し、「包括と排除のサーキュレーション・システム」として提示する予定である。

トランスジェンダーアスリートやDSDアスリートの女子の枠組みでのスポーツ参加に関するガイドラインは、これまでに何度も修正が加えられており、今後もまた変更される可能性がある。ここからは、トランス女性アスリートやDSD女性アスリートをどのように包摂するのかについて、まだ全ての人を納得させるようなコンセンサスが形成されていないことがうかがえる。本研究では、トランスアスリートやDSDアスリートについて、包摂的な態度をとるか排他的な態度をとるかは、必ずしも一貫しておらず、スポーツの価値をどのように捉えるのかにより、揺れ動く傾向にあることがわかった。本研究の成果は、多様な性に対応するスポーツイベントのあり方やスポーツの価値の多様性を考えるための知見を提供するものであり、社会的に意義のある研究であると言える。



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Tanimoto, C., & Miwa, K.	4. 巻 24
2. 論文標題 Factors influencing acceptance of transgender athletes	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sport Management Review	6. 最初と最後の頁 452-474
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/14413523.2021.1880771	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 松下千雅子	4. 巻 80
2. 論文標題 スポーツにおける公平性と多様な性： IAAFによるDSD規定に関して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 関西大学人権問題研究室紀要	6. 最初と最後の頁 41-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 2件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Tanimoto, T., & Miwa, K.
2. 発表標題 Genderism and the Acceptance of Intersex Athletes in Sport Events
3. 学会等名 16th Asian Association for Sport Management Conference（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松下千雅子
2. 発表標題 スポーツの価値に関する認識がトランスアスリートの包摂に与える影響について
3. 学会等名 日本スポーツとジェンダー学会第20回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松下千雅子
2. 発表標題 トランス・アスリートの受容に関する研究
3. 学会等名 日本スポーツとジェンダー学会第19回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松下千雅子
2. 発表標題 スポーツにおける公平性と多様な性
3. 学会等名 関西大学人権問題研究室主催公開シンポジウム『スポーツとジェンダー～「男らしさ」の競技場と性ノ別』（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松下千雅子
2. 発表標題 性の多様性とスポーツ
3. 学会等名 イーブルなごや講座（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	三輪 晃司 (Miwa Koji) (40806147)	名古屋大学・人文学研究科・准教授 (13901)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------